

忙しくも充実した 学生生活を振り返って

羽田 孝幸さん

(平成15年大学・総合政策学科卒)
株式会社読売情報開発 勤務



このたびは東北文化学園大の同窓会報の創刊おめでとうございます。

私の近況ですが、卒業後、現在の会社(株)読売情報開発)に入社し約6年間、地元近くの福島県郡山市に住んだ後、平成21年3月より転勤で岩手県盛岡に住所を移し生活しております。

今まで大学時代も含めて「福島(福島市)→仙台→福島(郡山市)」と南東北が生活の場であったため、初めての北東北の生活は、同じ東北であっても「南」と「北」では文化や、現地の人の性格、生活の便利な度合いがかなり違っており、いろいろな新鮮さを感じながら生活・仕事をしています。特に総合政策学部時代のゼミ「地域交通観光論」を専攻したこともあり、転勤後、北東北の観光と特産物に再び興味を持ち始め、休日はなるべく岩手県内の観光名所、物産館に足を運んでいます。

母校在学中は、読売新聞の奨学生として新聞配達、集金などの仕事をしながら大学に通う、今はほとんどいない「勤労学生」であったためか、学業と新聞奨学生の仕事との両立が大変でした。

特に1年のころは前・後期とも、必修教科の時間割が1コマから最終コマまでぎっしりと詰まっていたためか、新聞配達業務を終える間もなく大学に通い、最終コマ終了後は大学から直接新聞販売店に戻って集金やチラシ折込作業をする程、過酷な生活を送っていました。そんな生活の繰り返しと小柄な体格の私ゆえに、その当時「体を壊さないか」と当時のSA(スチューデントアドバイザー)の大原進教授や、後にゼミでお世話になる中村實教授などの先生方、当時の新聞販売店の人たちによく心配されたことを昨日のこのように思い出します。

それでも大学では学友会の役員を務め、3・4年次の中村先生のゼミではゼミ長を受け持たせていただきましたし、学部の友達と飲んだり・遊んだりすれば、リフレッシュでき、新聞販売店の仕事もほとんど休まず勤めることができました。今思うと「タフだったなあ」と思いますし、彼女を見つけれなかった以外(笑)は、すごく充実した学生生活を送れたな、と思います。

卒業後は、仕事の忙しさから大学との関わりはあまり深く持てずじまいですが、大学の同級生などとの個人的付き合いは比較的あり、当時のゼミ仲間や、ゼミの教授であった中村先生と交流は続き、ゼミ仲間と仙台や郡山で個人的な形ではありますが飲んだりもしており、その頻度もここ1・2年で増えつつあります。

同窓会も本格的に始動することを機に、大学仲間や後輩との交流が増えることが今後の楽しみです。

最後に、総合政策学部1期生OBとして、母校の繁栄はもとより、同窓会組織が末永いものであることをお祈りいたします。

(岩手県盛岡市在住)

東北科学技術短期大学2年間の 学生生活を振り返って

高橋 秀之さん

(平成7年短大・情報工学科卒)
東北学院大学 勤務



時が立つのは早いもので、東北科学技術短期大学の情報工学科を1995年3月に卒業してから早14年が過ぎ、自分がアラサー世代(Around30、30歳前後)とアラフォー世代(Around40、40歳前後)の狭間の世代であることに気がつきました。

さて、学生の頃は、仲良しの友人達と席を合わせて講義を受けたり、休み時間は色々な雑談で盛り上がりたり、また、当時の短大で学長であった大内先生の企画で、学生を学長の自宅に招く食事会に参加するなど、短大が開学したばかりで、これから学生と教職員が同じ船に乗り、一丸となって短大を盛り上げていこうとする活気に満ち溢れていました。それが今でも懐かしさを感じます。

現在、東北学院大学へ就職し今年で15年目となり、情報システム部情報システム課(土樋情報処理センター)に所属しています。東北学院大学情報処理センターは、土樋情報処理センター、多賀城情報処理センター、泉情報処理センターのキャンパス毎に設置された3つのセンターで構成され、キャンパス毎に特色のある情報教育および各種研究の支援を行い、学生および教職員の皆様にご利用いただいています。

土樋情報処理センターは、主に文学部・経済学部・経営学部・法学部におけるコンピュータリテラシー教育、外国語教育等に活用され、コンピュータの基礎的知識、情報収集能力、他者とのコミュニケーション能力、プレゼンテーションによる自己表現能力など、社会で実践的に活かせるコンピュータ利用技術の習得の場となっています。

新人の頃は、わからないことばかりで多々苦労したこともありましたが、1年1年時間をかけて色々学んだことで今では仕事にも慣れ充実した日々を送っています。

在学中は、香野先生、石田先生、鈴木先生、神村先生には大変お世話になりました。印象に残っているのは、香野先生からは、まだ入学したばかりの時に、情報工学科全員の学生を教室に集め、実験レポートの書き方を詳しく教えていただいたこと、鈴木先生、神村先生からは、プログラミングの基礎を学んだこと、そして、2年生の卒業研究では、石田先生の研究室に所属し、社会人として業務で重要となる計画(PLAN)、実行(DO)、評価(CHECK)、改善(ACT)などをご指導いただき、それを実践したことにより、社会人としての基礎を培うことができました。

最後になりましたが、東北文化学園大学の開学10周年を心よりお祝いたしますとともに、現役学生の皆さんにおいては、学生生活の一日一日を大事に過ごし、先生方から多くのことを学んでほしいと思います。(宮城県仙台市在住)

【参考】東北学院大学情報システム部情報システム課
(土樋情報処理センター)
<http://www.tssc.tohoku-gakuin.ac.jp/>

活躍する卒業生

これまでに卒業した同窓生は4,500人を超え、それぞれが思い思いのフィールドで活躍しています。東北文化学園で学んだことを様々な形で活かして活躍する卒業生の、在学中の思い出と現在の近況をご紹介します。

「活躍する卒業生」寄稿者募集



同窓会事務局では、本コーナーにご寄稿いただける卒業生を募集しております。
在学中の思い出や近況を、形にしてみませんか？
自薦、他薦は問いません。興味のある方は同窓会事務局までお気軽にお問い合わせください。
お問合せ先 東北文化学園大学同窓会事務局 電話 022-233-6194 (同窓会直通) メール alumn@office.tbgu.ac.jp

大学生活で得ることができた 仲間とチャレンジ精神

齊藤 誠人さん

(平成20年大学・保健福祉学科
精神保健福祉専攻卒)

東日本旅客鉄道株式会社 勤務



私が学生時代大切にしていたことは、「チャレンジすること」そして「人の繋がり」です。たくさんの仲間と共に、何事にも果敢にチャレンジしていきたい。その想いだけで駆け抜けた4年間でした。

例えば、サークルでは保護者と学生で行う新しいタイプの学童保育を実践し、保育を肌で学んだり、仙台七夕まつりに向け近隣の小学生たちと七夕飾りを共同制作し、銀賞を受賞したこともありました。その他にも、仙台市の政策として小学校の統廃合がすすめられる時、3日で1000人を越える反対署名を集めたことや、精神障害者の就労に関わるボランティアに携わったことなど、ここには書き切れない貴重な経験をさせて頂きました。

この貴重な機会や経験を与えてくれたのは、たくさんの方の仲間や支えて下さった指導者の方々の存在があったからです。決して鮮やかな思い出だけではありません。自分の無力さは常に感じていました。

そして同時に、全く知らない環境へ足を踏み入れ、自分自身を見つめ直したいという想いが芽生え、JR東日本に勤務することを決めました。

当社は非常に公共性が高く、大きな社会的責任を担っています。例えば、10年に1回の事故であっても許されません。その責任の裏側に、人々の命、生活が存在しているからです。「人の生活に携わる責任」という点では、「福祉」と共通する部分もあるのかもしれませんが。

入社以前は民間企業に就職することを躊躇いましたが、今は社会的責任を全うする担い手になれることに、とてもやりがいを感じています。

今後、無事試験に合格し訓練を経れば、車掌、運転士として現場第一線で業務に従事していることでしょう。その先の具体的な将来像は想像できていませんが、学生時代に学んだ「福祉」を基に、誰もが安心して利用できる駅づくりや鉄道サービスを、自ら提案し創りあげていくことにチャレンジしたいです。高い公共性、大きな社会的責任を担っているからこそ、地域社会に貢献できる可能性を数多く秘めていると思っています。

これからきっと多くの壁にぶつかるでしょう。しかし大学で得た「チャレンジ精神」と、私を影で支えてくれる「仲間の存在」が、不安や困難を「希望」に変える原動力になることを信じ、今は一步一步着実に歩んでいきます。

私にとっての大学4年間は、これから生き抜くための、大事なものを与えてくれた素晴らしい時間でした。

(福島県郡山市在住)

沢山の思い出を重ねた 大学生活 4 年間

佐瀬 正志さん

(平成15年大学・応用情報工学科卒)
古川NDK株式会社 勤務



同窓会報と言うお話を頂き、何を記載すればいいのか？難しい…。だけど、沢山の思い出は残っている物なのだと改めて、思い出させてくれた。右も左も無い一期生として入学し、すべてが新鮮な形で経験として積み重なり、土台となり今に繋がっているのだと。もちろん、勉強・知識を学ぶ為の学校なのだけれど。

4年間の学生生活の中では、文化祭実行委員として寝ずに準備をし、大きな行事を無事に終える事ができた事。意味もなくギブスを付け、数ヶ月間登校し、皆さんに御心配頂きました。心優しい皆様の対応を思い出すと心が痛みます(笑)。下らない事に全力で取り組んでいた事が懐かしく、良い思い出です。沢山の思い出を思い出せる事ができる事が、素晴らしい学生生活を送っていた証なのだと思います。

大学卒業後、宮城県内にある、古川NDK(株)に勤めています。小さな電気部品を作る工場です。生産の仕組みを学び、一つの工程の大切さを学びました。製品一つ一つに特徴があり、性質を見つけるのには、苦勞をしていました。現在は、製造部・技術部の経験を生かし、生産統括部に所属しております。情報・受注を元に、数通りある生産スケジュールの作成・指示、また、数ヶ月先までの生産計画・部材の手配・売り上げ計画の作成が主な内容です。一つの手配・計画ミスが大きな影響を与えてしまうため、気を抜く事ができない内容になります。営業を通してお客様との対応なのですが、それでも大手家電メーカーや、車載メーカーとの対応の為、精神的に追い詰められる事も多々あります。逆に、先の見えないこのご時世の中、計画が巧く行った時は嬉しいものです。お客様は国内だけではなく、国外に在る事が多く、今になって一番嫌いだっただ英語には大変苦勞し、もっと勉強していればよかったと、後悔しています。

年々、連絡を取る事が薄れてきていますが、何かの拍子に連絡を取った時、皆との会話は力になります。ほとんどが、愚痴になる事もあるけれど、それでも楽しい時間を共に過ごしてきた時間を思い出せる事は本当に素晴らしい事です。どんな些細な事でも、連絡を頂ければ、嬉しいです。そして何時か又、皆で遊べればいいですね。

最後に質問です。

あなたは、学園歌「輝ける者」を覚えていますか？

(宮城県登米市在住)